

# 令和6年度「SDGsの実現に向けた教育推進事業」取組内容

上尾市立西中学校

## 1 育成する能力

- ・生徒自身が持続可能な社会をつくる担い手としての資質を養う。
- ・自ら課題を設定し、解決に向けた手段を考え、実行し、再度課題を見直す力を養う。

## 2 研究概要

### (1) 取り組むSDGsの目標



### (2) 研究主題

未来に夢を持ち、持続可能な社会をつくる生徒の育成  
～ESDの資質能力の育成に向けた中学校カリキュラムの充実～

### (3) 研究仮説

- ① SDGsの視点から中学校カリキュラムを見直すことで、生徒が将来について主体的に考え、多様な他者と協働できる力を備えた持続可能な社会の担い手になることができる。
- ② 外部の団体と連携を図ることで、社会で起きていることを自分のこととして捉えることができ、一人一人の行動計画を考え・実践することで将来につながる資質を養うことができる。

## 3 企業・団体との連携

### (1) 連携・協働した主な企業・団体等

- ① ネットトヨタ東埼玉支店
- ② 株式会社パイロットコーポレーション
- ③ ウォータースタンド株式会社
- ④ 上尾市立中学校給食共同調理場

### (2) 連携・協働した主な内容

本校では、第1学年「知る」、第2学年「調べる」、第3学年「実践する」と系統的にテーマを設定し、探究活動を行っている。第3学年では、個人で興味・関心のあるSDGs 17目標のアンケートを実施し、共通の興味・関心がある25名前後の7グループに分かれた。企業・団体とは、第3学年「実践する」で以下のように連携を図った。(★=企業・団体との連携)

- ★・10月上旬：企業・団体にお越しいただき、関連するSDGs 17目標について企業・団体の取組、現状と課題、中学生に期待することなどの講演をしていただいた。
- ・10月下旬：個人で調べ学習をおこない、課題に対する解決策（アクションプラン）を「活動報告書」にまとめ、発表会をおこない、グループとして取り組む活動を決定した。
- ★・11月下旬：グループで取り組むアクションプランを企業・団体の方に提案し、アドバイスをいただいた。

・12月上旬：アクションプランを全校で呼びかけをおこない、実践した。

＜令和6年度 実践内容（一部）＞

- ① 各家庭から使っていないおもちゃを、学童や保育園に寄付をする。
  - ② 各家庭から古布を回収し、エコバックを制作する。
  - ③ 昼休みに教室の電気を消灯するなど、節電のキャンペーンをおこなう。
  - ④ 使用済みの文房具を回収し、パイロットコーポレーションのリサイクルプログラムに参加する。
  - ⑤ 西中学校区の鴨川とその周辺を清掃し、水質の改善を図る。
  - ⑥ 各家庭から余っている衣類を回収し、NPO団体を通じて、世界に寄付をする。
  - ⑦ 給食のアンケートをとり、共同調理場に残食を減らす取り組みの提案をおこなう。
- など計11のアクションプランを実施した。

・1月上旬：実施したアクションプランについて、成果と課題をGoogleスライドにまとめる。

★・2月上旬：各グループでまとめた内容を全体発表会で発表する。その際、企業・団体の方にもお越しいただき、成果と課題に対して評価をしていただく。

#### 4 研究内容

##### (1) 研究組織

研究推進委員会（校長、教頭、主幹、研究主任、研究推進委員）

校内研修（全職員）

##### (2) 研究の流れ

月日	事業内容	場所	対象
R6年4月8日	校内研修 学校課題研究の主題と仮説を周知し、実施概要計画の提案をした。	職員室	教職員
R6年5月9日 10日	1学年校外学習 赤城宿泊体験 SDGsの視点をもって宿泊学習に参加し、国立赤城青少年交流の家での暮らしと上尾での暮らしを比較し、学んだことを振り返りでまとめた。	国立赤城青少年交流の家	1学年生徒
R6年5月31日	3学年校外学習 修学旅行 SDGsの視点をもって修学旅行に参加し、京都の町並みや寺院・施設で見つけてきたSDGsに関連する取り組みをまとめた。	京都府	3学年生徒
R6年7月19日	校内研修 年間指導計画の見直しをおこない、SDGsとのつながりを考えた。	職員室	教職員
R6年10月	1学年 総合的な学習の時間 学年職員が1人ずつSDGs17目標に関連する講義をおこなった。その後、個人で調べ学習をおこない、自身の考えをまとめ、発表した。	各教室	1学年生徒

R6年10月	2学年 総合的な学習の時間 班ごとに課題を設定し、調べ学習を行い、内容をGoogleスライドにまとめた。まとめた内容を発表し、発表に対する意見を交換した。	各教室	2 学年生徒
R6年10月～	3 学年 総合的な学習の時間 「現代社会のためにできること」というテーマでSDGsに関連する課題を見つけ、調べ学習を行い、アクションプランを策定した。	各教室	3 学年生徒
R6年12月20日	校内研修 2学期の各学年の取り組みを発表し、職員間で共有をした。	職員室	教職員
R7年2月6日	3 学年 総合的な学習の時間 アクションプラン実施後の「成果と課題」をまとめ、発表会をおこなう。関連する企業・団体の方に評価していただく。	体育館	3 学年生徒 関連企業・団体
R7年2月7日	2 学年校外学習 東京校外学習 班で設定したテーマに合う施設を訪問し、SDGsに関連した学習を深めた。	東京都 各施設	2 学年生徒
R7年3月26日	校内研修 今年度の振り返りをおこない、来年度への引き継ぎ事項をまとめる。	職員室	教職員

### (3) 取組

- ア SDGsの視点から中学校カリキュラムを見直すことで、生徒が将来について主体的に考え、他者と協働できる力を備えた持続可能な社会の担い手になることができる。
- イ 外部の団体と連携を図ることで、社会で起きていることを自分のこととして捉えることができ、一人一人の行動計画を考え・実践することで将来につながる資質を養うことができる。

## 5 成果と課題

### ○ 生徒の変容

- ・ 生徒自身が持続可能な社会をつくる担い手としての資質・能力を養う。

社会で起きていることについての知識が養われ、「他人事」から「自分事」として考える力がつき、個人での行動計画を考えることができるようになる。(全校生徒に対して、令和6年度の意識変容調査を令和6年4月実施、令和7年3月に実施予定)



・ 全国学力・学習状況調査 児童生徒質問紙結果について

「【4】-25 地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う」の項目で、R5年度「そう思う」「ややそう思う」と答えた割合が58.6%に対し、R6年度は65.4%と意識に変化が見られた。また、「【6】-30 課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」の項目では、R5年度「そう思う」「ややそう思う」と答えた割合が76.2%に対し、R6年度は80.8%と主体的に取り組む生徒が増えた。

○ 学校全体の変容

・ 年間指導計画の見直し

教科・領域部会で年間指導計画の見直しを行い、SDGsとのつながりを考えることで、教科等横断的に指導ができるようになった。また、総合的な学習の時間の見直しを行い、本校におけるSDGsに関連する授業内容の精査を行った。



・ 総合的な学習の時間の見直し

1年次「知る」、2年次「調べる」、3年次「実践する」のテーマのもと、総合的な学習の時間の見直しを行った。1年次には、学年教員が1人1つのSDGs17目標を担当し、関連する講義を行った。その後、生徒が興味関心の高い課題を設定し、ICT端末を活用して調べ学習を行い、まとめ・発表を行った。2年次には、東京校外学習の取組の中でSDGsに関連する企業の調べ学習を行い、校外学習の中で企業訪問を行った。その後、校外学習のまとめの中でSDGsに関連するまとめを行い、発表した。

○ 連携した企業・団体の声

・ 教科書の内容を普通の授業として教室で学ぶより、生徒一人一人が体験して学習することは、非常に良い体験ですし、記憶として残ると思います。また、課題を、調べて、行動を起こし、まとめて、発表するというプロセスを、メンバーで共有しながら取り組む事は今後、必ず活かされると思います。

○ 令和7年度に向けての課題

・ ファシリテーターとしての教員の育成

授業では、教師からの一方向の学習ではなく、ファシリテーターとしての役割が求められる。学年や学級によって違いが生じてしまうことを避けるため、校内研修など、教員の資質・能力の育成が必要だと考える。また、その中で負担感を無くしつつ取り組みの内容を考えなければ、意識に差が生じるため、出来るものの中から最大の効果を発揮する取組を検討する。

・ 外部団体、企業との連携

外部との連携について、校内の取り組みに合う企業の精査に課題が見られた。講師派遣の報酬については、長期的な視点や全県での取り組みを考えると、無償で協力していただける企業が適切だと考える。また、今後継続をしていく際に、職員の異動なども考えると、関係機関との体制づくりが必要と考える。

